

総合評価の決め方について

評価の現状

直近2年間の自動車アセスメントの評価を確認したところ、衝突は60%、予防は86%以上が最高評価を獲得。評価結果が最高評価に偏っており、ユーザーがより安全な自動車を選択する際の指標にしづらい。

[参考]直近2年間の評価結果

	予防					衝突						
	ASV++		ASV+		全量	5☆		4☆		3☆以下		全量
	台数	割合	台数	割合	台数	台数	合計	台数	合計	台数	合計	台数
2017年度評価	19	95.0%	1	5.0%	20	9	60.0%	6	40.0%	0	0.0%	15
2016年度評価	19	86.4%	3	13.6%	22	6	54.5%	5	45.5%	0	0.0%	11

また、特に予防においては、対応していない又は評価点が著しく低い項目があったとしても全体の得点が高ければ最高評価を獲得することができ、これは、一般的なユーザーが「最高評価」に期待するものと乖離することが懸念される。

対応案

評価結果が最高評価に偏らないよう、過去の実績等を踏まえた基礎点を引いたうえで、レベル閾値を設定する。

また、総合安全性能評価においては、予防と衝突の各グループ評価及びグループ評価内の各項目について優れた評価を得ていることを、最高評価(5☆)の獲得条件とする。

① 装置ごとのレベル分け

- 1) 予防については、各装置の5割を基礎点とし、満点から基礎点を引いた値を均等割りし、5段階のレベルを設定する。(レベル1は50%未満、レベル2が50%以上62.5%未満、・・・、レベル5が87.5%以上の得点率)

衝突については、今後評価方法の検討等が予定されているため、2020年時点では現状維持とする。

- 2) ただし、新たに導入される項目については、導入2年目までは基礎点を0とする。(レベル1が20%未満、レベル2が20%以上40%未満、・・・、レベル5が80%以上の得点率)

② 予防安全性能評価・衝突安全性能評価

- 1) グループ毎に、各項目の各レベルの下限値を合計した値により、5段階のレベルを設定する。
- 2) レベル5を獲得するには、各項目においてレベル4以上であることを条件とする。

③ 総合評価

- 1) 各グループの各レベルの下限値を合計した値により、5段階のレベルを設定する。
- 2) 最高評価(5☆)を獲得するには、各グループにおいてレベル5であること及び事故自動緊急通報装置が備えられていることを条件とする。

④ その他

- 1) 現状より最高評価(5☆)を獲得しづらくなると考えられるため、一定のカテゴリの車両や特筆すべき性能がある車両に対する評価等の検討を行う。

(軽自動車を対象、予防安全性能満点を評価 等を想定)

参考：各装置のレベル分けのイメージ

○車線逸脱抑制装置等性能試験(満点：16点)

評価点(16点満点)	レベル(案)
14.0以上	Lv. 5
12.0以上14.0未満	Lv. 4
10.0以上12.0未満	Lv. 3
8.0以上10.0未満	Lv. 2
8.0未満	Lv. 1

○車両後方視界情報提供装置性能試験(満点：6点)

評価点(6点満点)	レベル(案)
6.0	Lv. 5
5.0以上6.0未満	Lv. 4
4.0以上5.0未満	Lv. 3
3.0以上4.0未満	Lv. 2
3.0未満	Lv. 1

○高機能前照灯(満点：5点)

装備装置	評価点	レベル(案)
自動防眩型	5.0	Lv. 5
自動防眩型	2.4	Lv. 4
自動防眩型	0.7	Lv. 2
自動切替型	1.4	Lv. 3
自動切替型	0.6	Lv. 2
自動切替型	0.2	Lv. 1

○ペダル踏み間違い時加速抑制装置(満点：2点)

評価点(2点満点)	レベル(案)
1.6以上	Lv. 5
1.4以上1.6未満	Lv. 4
1.2以上1.4未満	Lv. 3
1.0以上1.2未満	Lv. 2
1.0未満	Lv. 1

○事故自動通報装置

AACN、ACNを5☆の条件とする。

参考：被害軽減ブレーキの得点状況

